諸何雲水錄

12

へ13
3942
3

へ13
3942
3

寺

茶磯榮

十八九
本大學出版部

摂州勝尾寺
豊州岩屋
月峯

一 和田屋日蓮宗
初雞山弘願寺

茶 清文舟命法寺
利生寺

一 廣善信寺浄土命
こもりまつ
町本

[illegible]の事

茶 [illegible]和尚物語

[illegible]事

一 山中の宿[illegible]事

[illegible]事

[illegible]付雲水録巻[illegible]

和田[illegible]

[illegible]事

茶 書文毎命[illegible]事 [illegible]

利[illegible]事

[illegible]和田[illegible]

の[illegible]

の男子[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

書も[illegible]の上[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せんかの法師めがせつの法へいたらん
為ぐ事なれば慶信聖人の思神のこと
しるの上志願の只に業障ぐし
とのつ障ふ元一魔をがてらに法
世わて上所初段後の用を解脱
てしも善の果ごりを世ちぶし
生ぶの善と上ち知初年
物世尼ハ部七ちて別きしを市ちぶ

ぶ尊ひみ教の思ちうも尋
ぐ毎回ぐ設けれ毎ぐ今ち
叮ちと行ちて報恩をちけちち
佛の祈ちぶ人ぶ方ぐ知ち
尊ぶり弥ち佛ちして帰ぶる
逢年ちて人のち信ふ年毎年
新ぶち人ぐ人ち侍ぶ人ぶ
て祝ちけ今日ハ尼ク心ぐしぶ

我屋人をうりもとめて佛ゐんぐ
黄金をもとめうしなふに佛ゐんぐ
和ゆう金銀の道をあつめ財ぜいを
さひまんの佛ゐんぐ推古佛
だいぶつ薬師ぶつ観音ぶつ
屋宅に和ゆうたいぶ先祖をとむせ
もひのあり仏像をうりかい
掃ひ薬師ぶつ四天王ぶつ

だいぶつ推古の四天王の
手てのあり仏像佛ゐんぐ
石金ぶつ法隆寺ぶつ四天王
ぶつ四天王ぶつ仏像一の
仏金ぶつ法隆寺ぶつ聖徳ぶつ
屋宅四天王ぶつの御ぶつ天加
ぶつ四天王ぶつ四天王ぶつ
仏像ぶつ推古ぶつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

や家郎と今は身をかくりけ
る所へひき立て出し新宮
まつ立づまりおべし近所
源命ふかく成ば世をかくしよ
事かりけん年来養子
ぞの義経と義和ゆ和ゆ
ぐんの義経と御の事よう云
つのり我と義経世をひ
て出家せんとの事一定なれ
ば我れ世をかくしの業
なり我れ出家せんと思ひ
ん人へ申申せてこそ出家
せんと思ひ給へ
ぬ生涯なれども
後世ぞ弾せ世代
の事動用是人の
弟子我命を世を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せんぐ　たかうてい　ちゑ　ぶ
ゑん　ぶつ　ぶ　ぐの　ぶ　ぶ　わ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

親の勘当されたるこんさんは市中
の武士なれども今日
市井に住居を雅と称し
いやしき仕業をなす
はやうの事何ぶん今日の事なれば
めんぼくなく覚悟
平生のぶしたる和尚て
妙華文寛勘ちとなれば
のけの御上事をうけて
市井仮平たく可しとて
かしら吟のぶ妙華尼情和尚
はなはだ
ぶしたる和尚て
たさ
たる
市井仮平
たさ
たる
市井仮平
たさ
たる
市井仮平
たさ
たる
市井仮平

汁器に天人供養より勝ぐれたる事
なるべし如来の説法の時
法華経の説を聞く人今いまだ
なを稚小なれども和尚の首を
おさへ世尊の説法を聞かせ
妙華尼法華経を受持して家を
捨てて出家し菩提の乳の
母と切磋琢磨して仏道に
入れり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

熱田いしやの行の事
なるべし御番と都にあるて
初夏しほらがなるまゝ花落
明られども夜明の道をいそぎ
行るの宿の明るを
なるべし宿の陸奥にあるて
海山をたゝれて一栗の道
を出ぬ陸奥の

なれば命の終りて見ぬおや
うこゝろの無りこゝ
海山をあしてもとゝ
三月なれ陸奥と
の海山見渡方の海道と
げ〳〵こゝろ何やら月なれ
陸奥にて松島
なづまに出る

勝手ものと
高田屋小角
今も様子
法華みち
十万石
藩主
新小姓
うらいやけ
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

世のて事問ひ問ふ法師のもとに
ゆきて問ふ法師のいはく
なんぢ雑ごとを学ばずして
ただ一つの法を学ぶ
修行者いはく金をもつて
まこととなすがごとし
中に入れまきて
多くの色を授けんがごとし

あるいはまたいはく柳の
ごとしもろもろの
鳥柳にあつまりて
柳はもろもろの鳥
をやしなふ
ちからなきものを
ちからあるものの
まもるがごとし
世の人法師
をあがめ